

RECNA研究会報告「人間的価値と核廃絶」

樋川 和子

2024年9月、国連が開催した未来サミットは「未来のための協定(Pact for the Future)」と題した合意文書を採択した。「未来のための協定」は核兵器の問題を含め、我々が直面する諸問題に対応するためにとるべき行動が記されている。しかし、国際社会が直面しているより本質的な問題、すなわち、協力を不可能としている分断と対立をどのように乗り越えるかについては何ら具体的な提案はなされていない。

分断と対立を乗り越え、協力を可能とするにはどうすれば良いのか。この問いについて考えるために、2024年12月22日、公共善エコノミーの提唱者クリスティアン・フェルバー氏をお迎えして「人間的価値と核廃絶」と題したRECNA研究会をハイブリッドで開催した。

公共善エコノミーとは、経済活動の目的を利益追求ではなく「人間の尊厳」を始めとする人間が本来大切にしている人間

的価値、すなわち「公共善」の追求に置き換えることで、格差、環境破壊、人権侵害といった問題を解決するというコンセプトである。フェルバー氏は、公共善エコノミーを通じ社会において人間的価値が追求されることで、分断や対立を乗り越えることができると説いている。

本研究会では、日本における軍縮国際法研究の第一人者であり、人類の安全保障及び人間の安全保障の重要性を提起する黒澤満RECNA顧問とフェルバー氏、樋川和子RECNA専任教員が、人間的価値と核廃絶との関係について、カントの「永遠の平和のために」も出発点として使いながら論じ、参加者とともに核廃絶を考える上で、人間的価値に着目することの意義について検討した。議論の詳細はレクナ・ポリシーペーパーとして発刊予定である。

(ひかわ かずこ、RECNA副センター長・教授)



研究会の様子

RECNA図書「核なき時代をデザインする」の出版

吉田 文彦

RECNA図書として2024年12月に、吉田文彦、遠藤誠治、佐藤丙午、真山全編著「核なき時代をデザインする：国際政治・核不拡散・国際法からみた現実のプロセス」を早稲田大学出版部から出版した。これは科研費の研究基盤(B)助成による「安全保障を損なわない核軍縮」(代表：吉田文彦、2021-2023年度)の研究成果である。筆者は、吉田文彦・遠

藤誠治・佐藤丙午・真山 全 編著／中尾麻伊香・向 和歌奈・西田 充・牧野愛博・小伊藤優子・堀部純子・樋川和子・河合公明である。

早稲田大学出版部のウェブに掲載された「作品概要」には、「専門知の結集により、核軍縮と安全保障をめぐる議論に新たな突破口を見出す」本であり、「安全保障を損ねることなく、核

なき世界を実現するための15の提言」を示したとある。また、本書第5章に記された、「大事な点は、核抑止が『特定の環境』の下でのみ成り立つ『安定』である現実を直視して、半永久的に核抑止に依存する選択は国の安全も個人の安全も保障するものではないとの基本認識を、私たちの未来を考える起点にも終点にもすることである」との言葉を紹介している。早稲田大学出版部のURLは以下。

<https://www.waseda-up.co.jp/economics/post-885.html>

(よしだ ふみひこ、RECNAセンター長・教授)



書影(早稲田大学出版部のURLから)

グローバルリスク研究センター キックオフシンポジウム

樋川 和子

2024年6月に長崎大学に新設されたグローバルリスク研究センター(CGR)のキックオフシンポジウムが、同年12月21日、長崎大学文教スカイホールにて開催され、プラネタリーヘルスにおけるグローバルリスクについて文理・分野横断的、多様な視点で活発な議論が行われた(シンポジウムには対面で約70名、オンラインで約50名が参加した)。シンポジウムの総司会会は西田充RECNA兼務教員が務めた。

午前のプレセッション「グローバルリスクと情報」には、中村桂子RECNA専任教員がパネリストの一人として登壇し、アフリカと紛争、被爆の伝承、災害と地域コミュニティ、種苗法と生物多様性といった一見異なるテーマを「情報」という横軸で繋ぐ議論に貢献した。午後は、永安武学長による「プラネタリーヘルス」に対する長崎大学の全学的な取り組みの紹介を皮切りに、「プラネタリーヘルスを脅かすグローバルリスク」(セッション1)、「複合危機の時代における価値の追求」(セッション2)をテーマに、日英同時通訳をいれて議論が行われた。セッション1ではローマクラブ共同会長である、ポール・スリバスタバ・ペンシルバニア州立大学教授、白波瀬佐和子・国際連合大学上級副学長が基調講演を行い、セッション2では作家であり「公共善エコノミー」の提唱者でもあるクリスティアン・フェルバー氏が基調講演を行なった。各セッションにはグローバルリスク研究センターの教員がパネリストとして登壇。セッション2では樋川和子RECNA専任教員が司会を務めパネルの議論に貢献した。

なお、詳細な報告と当日の動画はグローバルリスク研究センターのウェブサイト(<https://cgr.nagasaki-u.ac.jp/1633/>)に

長崎大学グローバルリスク研究センター(CGR) キックオフシンポジウム

日時: 令和6年12月21日(土) 10:00-17:30
場所: 長崎大学文教スカイホール/オンライン配信

プレセッション 10:00-12:30
グローバルリスクと情報
進行: 岩下 明裕 (グローバルリスク研究センター 教授、センター長)

開会 13:30-14:00
永安 武 (長崎大学 学長) 山崎 光悦 (長崎国際研究教育機構 理事長)

セッション1 14:00-15:30
プラネタリーヘルスを脅かすグローバルリスク:我々は何をすべきか?
進行: 森田 文子 (環境医学・グローバルヘルス研究科 グローバルリスク研究センター 教授、副センター長)

セッション2 15:45-17:15
ポリクライシス(複合危機)の時代における価値の追求
進行: 樋川 和子 (長崎国際研究教育機構 グローバルリスク研究センター 教授、副センター長)

閉会 17:45-17:30
岩下 明裕 (グローバルリスク研究センター 教授、センター長)

掲載されているので是非ご覧になってみて頂きたい。

(ひかわ かずこ、RECNA副センター長・教授)

長崎大学は核軍縮や平和・安全保障分野の研究で国際的に高く評価されているストックホルム国際平和研究所(SIPRI)、国連軍縮研究所(UNIDIR)のそれぞれと学術交流協定に署名した。両方とも主幹部局はRECNAで、グローバルリスク研究センターなどが参加部局となっている。

SIPRIのダン・スミス所長は2024年12月2日に長崎大学を訪問し、永安武学長と著名式にのぞんだ。スミス所長は同日、核兵器廃絶長崎連絡協議会主催の2024年度市民講座 第5回(特別講座)で、「今、核兵器問題にどう挑むか:戦争被爆から80年を前にして」をテーマに講演した。厳しい安全保障環境の中での核軍縮のあり方などについて課題を指摘され、会場だけでなく、海外からのオンライン参加もあった。2025年に入ってから、科研費の研究基盤(B)助成による「新興技術で変わる安全保障と新たな「戦略的安定」:軍備管理再構築による対応の研究」(代表:吉田文彦、2024-2026年度)のメンバーがSIPRIの研究者とオンラインで交流し、先方のプレゼンテーションの後に質疑応答を行った。

UNIDIRとの協定は2024年9月23日付で完了しており、今後の共同研究のテーマなどを検討中である。UNIDIRのロビン・ガイス所長は2025年5月21日に同協議会主催の2025年度市民講座 第1回で、「平和と軍縮における対話の大切さ」をテーマに講演する。

(よしだ ふみひこ、RECNAセンター長・教授)



署名式後に握手するスミス所長(左)と永安学長

2024年度、RECNAは核兵器廃絶市民講座を、長崎原爆資料館で4回、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館で1回の計5回、核兵器廃絶長崎連絡協議会との共催で開催し、延べ650名が参加した。オンライン配信も定着し、長崎県内に限らず日本各地、海外からの参加者もあった。第1回では吉田文彦RECNAセンター長と熱帯医学・グローバルヘルス研究科／プラネタリーヘルス学環の春日文子教授が登壇し、「プラネタリーヘルスと核廃絶—地球と人間の健康のために」をテーマに議論を行った。第2回は、鈴木達治郎RECNA教授と中村桂子RECNA准教授が登壇し、「進む核軍拡—核弾頭ポスターから読み解く」をテーマに議論を行った。第3回は、太田昌克RECNA客員教授（共同通信編集委員）、多文化社会学

部の西田充教授、樋川和子RECNA副センター長・教授が、「近づく米大統領選—核軍縮の行方を考える」をテーマに議論を行った。第4回は、河合公明RECNA副センター長・教授の進行で、樋川和子RECNA副センター長・教授と中村桂子RECNA准教授が、「ジェンダーから見た核軍縮」をテーマに議論を行った。ストックホルム国際平和研究所(SIPRI)のダン・スミス所長を講師に招いた第5回(特別講座)では、「『今、核兵器問題にどう挑むか』戦争被爆から80年を前にして」をテーマにした講演があった。

(かわい きみあき、RECNA副センター長・教授)



ジェンダー視点で初めて核軍縮を議論(第4回)

ナガサキ・ユース代表団 13期生 活動開始:13期生の声を交えて

樋川 和子

2024年11月20日、ナガサキユース代表団13期生の任命式がRECNA1階会議室にて行われた。13期生は2025年からNPT準備委員会の開催時期がコロナ前の4月-5月に戻ったことから、NY渡航までに与えられた時間は5ヶ月弱とこれまでよりずっと短いものとなっている。そこで、12月-1月はまずはNPTに関する基礎知識の吸収をはじめとする頭作りの期間と位置付け、週1回のペースで集中的に勉強会を行い、2月-3月は、1月までに学んだこと、考えたことを踏まえ、外部講師も含めた学習講演会、広島研修、長崎研修を自主企画し、実施した。3月に入ってから2月までの活動も踏まえ、

NYで開催するサイドイベントの企画やアポ取りなどの準備に奮闘している。

なお、12月27日の勉強会の模様についてはNHKが取材し、1月8日のNHKニュースウォッチ9にて放映されている。またこの放送がきっかけとなり、3月7日にはNHK広島・NHK長崎合同制作の番組(「みんなの会議」)に13期生のメンバー二人が招待されて生出演し、広島の大学生や、カザフスタンの若者、ウクライナの関係者と核なき世界について議論を行う機会を得た。同番組の中では、2月15日に13期生がアトランタの大学生とオンラインで行った交流会の模様も放映され、

この交流会をきっかけに初めてヒバクシャという言葉を知ったというアトランタの学生の思いなども紹介された。

3月17日に行われた13期生のミーティング。サイドイベントについての議論をする予定だったが、13期生リーダー・副リーダーの提案でまずは広島研修(3月7日-9日)の反省会を行うこととなった。1.5時間におよんだ反省会の中では、「言葉でちゃんと伝えることが重要」、「個人として成長するだけでなく、チームとして成長したい」、「この反省会は次に向けての大事なステップ」、「NYを成功させよう」といった頼もしい言葉が飛び交っていた。

【12月・1月に行った勉強会のテーマ】

第1回(12月16日):「NPTとは」

第2回(12月27日):「NPTプロセスとは」

第3回(1月14日):「ウクライナ戦争」、「放射線医学」

第4回(1月21日):「被団協のノーベル平和賞受賞」、「記憶の継承」

第5回(1月28日):「戦後80年、私たちは何故核兵器を廃絶できずにいるのか」

(ひかわ かずこ、RECNA副センター長・教授)



2024年11月20日任命式にて

RECNAの活動

2024年10月1日～2025年3月31日

10月5日(土)	■2024年度核兵器廃絶市民講座 第3回 近づく米大統領選—核軍縮の行方を考える 講師:太田客員教授、西田教授、樋川副センター長 場所:長崎原爆資料館ホール+オンライン	12月6日(金)– 12月7日(土)	■ICU SSRI・上智大学IGC・RECNA共催シンポジウム 北東アジアにおける核戦争?:早期警戒・リスク削減・非核化 場所:国際基督教大学 東ヶ崎潔記念ダイアログハウス 国際会議室
10月16日(月)	■ナガサキ・ユース代表団第12期生NY活動報告会 場所:オンライン	12月10日(火)	■RECNAの目(見解文)「日本被団協のノーベル平和賞受賞の意義を考える」発表
11月20日(水)	■ナガサキ・ユース代表団第13期生のメンバー発表及び任命式 場所:RECNA1F会議室	12月23日(月)	■「核なき時代をデザインする—国際政治・核不拡散・国際法からみた現実的プロセス」刊行
11月30日(土)	■2024年度核兵器廃絶市民講座 第4回 ジェンダーから見た核軍縮 講師:樋川副センター長、河合副センター長、中村准教授 場所:国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジ+オンライン	12月	■「平和と核軍縮」誌(J-PAND) 第7巻2号刊行
11月30日(土)	■国際シンポジウム2024 グローバルに核被害をとらえ直す —いま改めて『ノーモア・ヒバクシャ』 報告者:鈴木教授 場所:広島国際会議場地下2階ヒマワリ	2025年 1月28日(火)	■「核なき時代をデザインする」出版についての記者会見 吉田センター長、樋川副センター長、河合副センター長 場所:RECNA1F会議室
11月30日(土)	■RECNAポリシーペーパー21 「A Glimmer Through Shut Door: Assessment of Advanced Nuclear Reactor Technologies on North Korea Denuclearization」刊行	2月27日(木)	■核兵器禁止条約第3回締約国会議に関するRECNAの発信についての記者会見 吉田センター長、河合副センター長 場所:RECNA1F会議室
12月2日(月)	■ストックホルム国際平和研究所(SIPRI)と長崎大学との学術交流協定締結に係る調印式 永安学長、吉田センター長、岩下CGRセンター長 場所:長崎大学事務局2階第3会議室	3月3日(月)– 3月7日(金)	■核兵器禁止条約(TPNW)第3回締約国会議参加:河合副センター長、鈴木教授、中村准教授
12月2日(月)	■2024年度特別市民セミナー 「今、核兵器問題にどう挑むか」戦争被爆から80年を前にして 講師:ダン・スミス スtockホルム国際平和研究所(SIPRI)所長 場所:長崎原爆資料館ホール+オンライン 同時通訳付	3月19日(水)	■核兵器禁止条約第3回締約国会議に関する報告についての記者会見 河合副センター長、鈴木教授、中村准教授 場所:RECNA1F会議室
		3月25日(火)	■第42回RECNA研究会「South Korea's Strategic Response to North Korea's Nuclear Weapons Threat」 講師:Lee Jong Jin ソウル大学平和統一研究院 上級研究員 場所:RECNA1F会議室
		3月26日(水)	■ナガサキ・ユース代表団第13期生との懇談会

講師: Lee Jong Jin ソウル大学平和統一
研究院 上級研究員
場所: RECNA 1F 会議室

3月26日(水) ■ 科研費研究会
講師: Lee Jong Jin 博士
場所: RECNA 1F 会議室

3月28日(金) ■ 被爆80年 長崎大学「継承と行動」プロジェ
クト「核廃絶への政治的アプローチを再考す
る」カーネギー国際平和財団とRECNAの共同
研究による書籍出版記者会見
吉田センター長、西田教授
場所: RECNA 1F 会議室

お知らせ

2025年度 核兵器廃絶市民講座のご案内

第1回「平和と軍縮における対話の大切さ」

講師: ロビン・ガイス (国連軍縮研究所所長)

日時: 2025年5月21日(水) 18:00~19:30

会場: ベネックス長崎ブリックホール国際会議場
+ オンライン配信 * 同時通訳付

第2回「躍動する新しい世代」

講師: 樋川 和子 (RECNA副センター長)

第1部 寺本南咲、大崎結月(国連ユース
ビデオチャレンジ入賞者)

第2部 ナガサキ・ユース代表团第13期生

日時: 2025年6月28日(土) 13:30~15:00

会場: 長崎原爆資料館ホール + オンライン配信

※ 詳細は [こちら](#) をご覧ください。

2025年度 核兵器廃絶市民講座

被爆80年 対話で平和を組み立てる

- 申込不要(オンライン参加要申込)
- 受講料無料

オンライン
配信あります

1
5/21* 平和と軍縮における
対話の大切さ
18:00~19:30

同時通訳付

ロビン・ガイス
(国連軍縮研究所所長)

会場: ベネックス長崎ブリックホール国際会議場

3
8/23* 美術作品から読み解く
戦争と平和
13:30~15:00

小坂 智子
(長崎県美術館 館長)

会場: 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジ

主催: 核兵器廃絶長崎連絡協議会
共催: 長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)

オンライン
申し込みは
こちら

第5回特別講座

※ 特別講座については時宜に合った
内容で開催予定です。日時、会場は未定

講座終了後、第3・4回は
「RECNAと語ろう」があります。

2
6/28* 躍動する
新しい世代
13:30~15:00

樋川 和子 (RECNA副所長)
第1部 寺本 南咲 第2部 ナガサキ・ユース代表团
大崎 結月 第13期生

会場: 長崎原爆資料館ホール

4
11/15* 歴史検証
対話が核軍縮を進める
13:30~15:00

吉田 文彦 (RECNAセンター長)
西山 心 (長崎大学大学院博士課程)

会場: 長崎原爆資料館ホール

お問合せ

核兵器廃絶長崎連絡協議会事務局 TEL. 095-819-2252
〒852-8521 長崎市文教町1-14 (長崎大学内) FAX. 095-819-2165
<https://www.pcu-nc.jp/citizen-seminar/2025-citizen-lecture/>

RECNA ニュースレター
長崎大学核兵器廃絶研究センター

第13巻2号 2025年3月31日発行

発行 長崎大学核兵器廃絶研究センター
〒852-8521 長崎市文教町1-14
Tel. 095-819-2164 Fax. 095-819-2165
E-mail: recna_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp
<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

©2025 長崎大学核兵器廃絶研究センター